

人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり

資料4

【県立高校が取り組む教育の重点】

- | | | |
|-----------------|----------------|-----------------|
| 1 挑戦する意欲を引き出す教育 | 2 学力の向上に向けた取組み | 3 地域を支える人材の育成 |
| 4 幅広い選択肢の確保 | 5 キャリア教育の充実 | 6 多様な生徒の学びの場の確保 |

【県立高校再編整備の基本方針】

● 各学科の配置

- (1) 普通科及び普通系の専門学科(理数、体育、音楽、国際)
 - ◆ 8地区ごとに、大学等への進学を希望する生徒への指導体制を整えるために望ましい規模の学校を少なくとも1校配置します。
 - ◆ 必要に応じて、普通科高校(普通系の専門学科との併設校を含む)の再編や「探究科」など新たな学科を設置します。
- (2) 職業に関する専門学科(農業、工業、商業、水産、家庭(含福祉)、看護、情報)
 - ◆ 地域産業や社会の情勢を踏まえ、生徒数の減少に伴う一律的な削減は行わず、全ての学科の学習の場を確保します。
 - ◆ 1学年当たり4学級以上の単独校については、原則として単独校として維持します。
 - ◆ 1学年当たり4学級を下回る単独校については、当面は単独校として維持しながらも、更に小規模化が想定される場合には、他学科との再編を検討します。
- (3) 総合学科
 - ◆ 8地区ごとに、少なくとも1校配置できるよう検討します。
 - ◆ 更なる設置については、生徒・保護者や地域社会のニーズを踏まえて検討します。

● 特色ある学校の配置

- (1) 総合選択制
 - ◆ 学校や地域の実情に配慮し、高校教育における質の確保・向上と学校活力の保持の観点から、小規模化する専門高校等を再編し、学科の枠を超えた学習ができる総合選択制高校の設置を検討します。
- (2) 中高一貫教育
 - ◆ 庄内地区について、東桜学館中学校・高等学校の取組みや、全国の併設型中高一貫教育校の成果を踏まえ、地域の意見を聞きながらモデル校を設置します。
- (3) 普通科単位制(全日制)
 - ◆ 学校独自の科目を含む充実した教育課程を編成し、生徒の多様な進路希望や学習要求にきめ細かく対応する全日制的普通科単位制高校を、8地区ごとに、少なくとも1校配置します。
- (4) 定時制・通信制
 - ◆ 夜間定時制については、状況が整った地区から昼間定時制への移行を検討します。
 - ◆ 多様な生徒が、それぞれの実情に応じて学習の時間帯や形態を選択することができる新しいタイプの高校を、庄内地区に設置します。

● 県立高校の再編整備に関する基本方針

- (1) 再編整備による新しい学校づくりなどを通して、高校として望ましい学校規模(1学年当たり4~8学級)を確保し、教育の質的な向上と学校の活力の保持を図ることを基本とします。なお、1学年当たり4学級を下回る学校については、キャンパス制の導入や地域との連携等により、教育環境の改善に努めます。
- (2) 1学年当たり2学級の学校については、入学者数が2年連続して入学定員の3分の2に満たない場合は、その翌年度から入学定員を1学級分に減じます。ただし、この基準の適用に当たっては、学科等の特殊性や交通事情等の地域の実情に十分に配慮します。
- (3) 1学年当たり1学級の学校^{※1}については、学校が所在する市町等の意向を踏まえ、学校関係者及び当該市町等で構成する「学校魅力化に係る地域連携協議会(仮称)」等において、学校の魅力化、活性化策を検討し、3年間を目処として実施します。

実施後においても、入学者数に増加傾向が見られない場合^{※2}は、設置主体を含めた学校の在り方について、地元市町と改めて協議することとします。

※1 この場合、分校も1つの学校と見なします。

※2 目安として、入学者数が2年連続して入学定員の2分の1に満たない場合とします。

県立高校再編整備基本計画（平成 26 年 11 月策定）の取組状況及び成果と課題

I 県立高校再編整備基本計画の性格

ねらい・方向性	主な取組み	成果（○）と課題（●）
「社会の変化に対応した県立高校の将来の在り方について 報告書」を踏まえ、今後の県立高校の再編整備に係る基本的な方向性を示す	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 計画期間を H27 年度から R6 年度までの 10 年間とし、4 学区（東、北、南、西）の募集学級数の目安を提示 ▶ 年次ごとの実施計画については、原則として実施年度の 3 年度前に公表し、可能な限り早期に周知 ▶ 社会の変化や国の改革の動向など、高校教育を取り巻く状況の変化を踏まえ、R 元年度末に基本方針を一部見直し 	<p>○H31（R 元）年度までは、原則 3 年先までの計画を順次公表していたが、R2 年度からは、R6 年度までの計画を示し、より十分な周知を図り、再編の準備ができた。</p> <p>●地方創生の観点もあり、地域からの学校存続の意見・要望が一層強まっており、計画を遂行するうえで慎重な対応が求められている。</p>

II 県立高校が取り組む教育の重点

1 挑戦する意欲を引き出す教育

(1) 多様な価値観に触れ、互いに高め合うことのできる学習環境の整備

ねらい・方向性	主な取組み	成果（○）と課題（●）
多様な価値観に触れながら、互いに高め合うことのできる学習環境の整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 教育の質的な向上と学校の活力の保持を図るため、1 学年当たり 4～8 学級を望ましい学級規模として設定 	<p>○適正規模を明確にし、学級数の削減が進んだ。また、進学を望む生徒が多い普通科高校は、8 地区(※)に配置され、適正規模を維持している。</p> <p>※東南村山、西村山、北村山、東南置賜、西置賜、最上、田川、飽海</p> <p>●定員割れが近年顕著となり、R5 年度の適正規模の学校は全日制 44 校中 23 校 (52.3%)、R5 入学者選抜の最終倍率は 0.81 倍。入学者確保の取組みを一層強化する必要がある。</p>
小規模校の在り方に加え、都市部の高校についても再編整備の検討を進める	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 1 学年当たり 1 学級の小規模校 6 校を対象とした「小規模校の在り方検討会議」(R2～4 計 5 回開催)を踏まえ、魅力化・活性化策を推進 <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校入学者選抜方法の改善 ・最上 3 分校への副校長の配置 ・「学校を核とした地域力強化費補助金」による支援 (R2～4) ・小規模校の学校関係者、町担当者による情報交換の実施 	<p>○学校の魅力づくりに向け、地域一体での取組体制が構築されるとともに、地域自体の魅力化や活性化にも議論が拡大している。</p> <p>○地域が主体となり、県外生の受入れ環境の整備が進展している。</p> <p>○副校長の配置により、学校運営や魅力化の取組み等に、より主体的・即時的に対応できる体制となった。</p> <p>●地域からの期待感が強まり、教員の負担感が増大している。</p> <p>●R5 年度から魅力化事業が学校と自治体の自走となるため、円滑な実施に向けて支援する必要がある。</p>

(2) 経済社会のグローバル化への対応と ICT を活用した教育活動の推進

ねらい・方向性	主な取組み	成果（○）と課題（●）
外国語教育の充実とともに、国際理解教育を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 国際理解教育推進事業 (ALT 招致：近年は 29 名) ▶ スーパーグローバルハイスクール (アソシエイト校) 指定校での国際教育の充実 (山形東 H28～R 元) ▶ 高校生留学支援事業 ▶ トビタテ！留学 JAPAN ▶ ESD 教育の推進 	<p>○CEFR：教員 B2、高校生 A2 相当検定取得数が増加するなど、教員・生徒の英語力の向上が図られている。</p> <p>○台湾での視察や現地学生との交流を通じ、農業科で学ぶ生徒の国際交流が進展した。</p> <p>●パフォーマンステストの定期的な実施など、客観的な評価を行っていく</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ユネスコスクール認定校（東桜学館中高）、ユネスコスクール・キャンディデート承認校（米沢興譲館、加茂水産） ▶ 英語ディベート力育成事業 ▶ 海外との遠隔教育推進事業 ▶ グローバル産業人材育成事業 	<p>必要がある。</p> <p>●英語教員の外部検定試験受験を奨励していく必要がある。</p>
ICT 環境を整備し、授業における効果的な指導方法の研究を進める	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ICT を活用した質の高い教育推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・普通教室及び職員室への無線 LAN 整備 (R2) ・教育システム基盤の構築・運用 (R3～) ▶ 県立学校 ICT 教育環境整備促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・普通教室等への大型提示装置の整備 (R3) ・生徒及び教員の 1 人 1 台端末の配備 (R3～4) ・教員の ICT 活用指導力向上研修等 (R3～) ・GIGA スクール運営支援センターの整備及び運用 (R4～) ▶ 「県 ICT 教育アクションプラン」(R3.4 策定) 等の計画整備 ▶ Google パートナー自治体プログラムへの参画 (R3.12～) 	<p>○普通教室等への無線 LAN や大型提示装置の整備、1 人 1 台端末の配備など、ICT を活用した学習環境の整備が進化した。</p> <p>●ICT 環境の更なる充実、1 人 1 台端末の更新方針、次期教育システム基盤の再構築に向けた方針等を検討する必要がある。</p> <p>●「山形県県立学校教育情報セキュリティ対策基準」に基づく教育情報資産の管理を、学校現場に周知徹底する必要がある。</p> <p>●ICT 環境の活用に関する教員研修の一層の充実が求められる。</p>
校務支援システムの導入などにより、校務の効率化を進める	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 統合型校務支援システムの構築及び運用 (R3～) 	<p>○校務効率化による事務業務の縮減が図られている。</p>

2 学力の向上に向けた取組み

(1) 確かな学力の定着と中高連携の取組みの推進

ねらい・方向性	主な取組み	成果 (○) と課題 (●)
教科・科目の特性に応じ、習熟度別授業や学習集団の少人数化などの取組みを推進し、言語活動の充実と基礎学力の定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 学び直し、基礎学力の定着に向けた各種取組みの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生のための学びの基礎診断（測定ツール）の全県立高校での活用（民間認定ツールを活用 39 校、認定以外を活用 3 校、学校独自 3 校） ・朝学習の活用（左沢、北村山、新庄神産真室川、長井工業、荒砥、加茂水産） ・義務教育段階の学び直し「リラーニング」の取組み（新庄北最上校） ・習熟度別学習「マイサポート」の取組み（置賜農業） ・「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」の実施（庄内総合） 	<p>○基礎診断の活用が全校で行われ、生徒自身が自らの学びの状況を確認し、力を入れる部分を把握する取組みにより、学ぶ姿勢が醸成された。</p> <p>●苦手分野の補強を図る一方、生徒によっては内容を十分に消化できず、学びの停滞が見られることから、適切に指導していく必要がある。</p>
単位制の活用や、生徒の進路志望等の実態に応じたコースの開設などにより、特色ある教育課程の編成を進める	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 単位制を活用した学校の設置（全日制 22 校、定時制 5 校） <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望に対応できる教育課程の編成 ・総合学科ではスクールミッションに基づいた系列の設定 	<p>○普通科単位制高校を各地区に整備し多様な進路希望に対応している。</p> <p>○総合学科におけるキャリア教育を組織的・計画的に推進し、生徒の多様な教育ニーズに応えている。</p> <p>○系列の学びが学校の魅力に繋がっている。</p> <p>●総合学科では、上級学校への進学から、学び直しを求める生徒まで、幅広い対応が一層必要となっている。</p>

<p>高等学校基礎学力テスト(仮称)を活用して指導を充実する</p>	<p>▶ 高校生のための学びの基礎診断(測定ツール)の分析と活用</p>	<p>○基礎診断の活用が全校で行われ、全国的な位置(客観的評価)を知ることによって進路選択に役立っている。 ●基礎診断結果のふり返りが十分でない学校もある。 ●診断結果について、生徒の意欲低減につながらないように、適切に活用していく必要がある。</p>
<p>(2) 自ら学び考える主体的な学習への転換と探究型学習の推進</p>		
<p>ねらい・方向性</p>	<p>主な取組み</p>	<p>成果(○)と課題(●)</p>
<p>言語活動の充実と、生徒が自ら学び考える主体的な学習への再構築により、生徒の思考力・判断力・表現力を養成する</p>	<p>▶ 総合的な学習の時間における、課題探究型の学習の推進 ▶ 探究科、普通科探究コースの設置 ・探究科(理数、国際):山形東、米沢興譲館、酒田東 ・普通科探究コース:寒河江、新庄北、長井 ▶ 探究型学習推進事業の実施 ・探究学習支援事業(大学教授・教員等の招聘) ・中核教員育成事業(H29~R元、他県先進校の視察) ・探究力育成事業 ・探究型課題研究発表会</p>	<p>○様々な課題に主体的・協働的に取り組む資質を持った人材の育成が実践されている。 ○探究科、普通科探究コースの教育を通して、難関大入試等に挑戦するマインドが育まれている。 ●探究科・普通科探究コースの取組みを中心に、探究型学習の指導計画や評価規準など蓄積した情報を収集・整理し、全県立高校への普及を図る必要がある。 ●教員の指導力向上が求められる。</p>
<p>理数教育を充実する</p>	<p>▶ 「科学の甲子園」「国際科学技術コンテスト」への参加 ▶ スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校における理数教育の充実(東桜学館、米沢興譲館、鶴岡南(致道館)、酒田東) ▶ グローバルサイエンスキャンパス事業による大学との連携</p>	<p>○「R3年度科学の甲子園」数学分野で酒田東が全国1位となるなど、着実に成果が出ている。 ○グローバルサイエンスキャンパスにチャレンジする生徒が増加し、学習の深化が図られている。 ●SSHの継続認定に向けて取り組む必要がある。</p>
<p>3 地域を支える人材の育成</p>		
<p>(1) 生命や伝統文化を継承し、地域社会の発展を担う人材の育成</p>		
<p>ねらい・方向性</p>	<p>主な取組み</p>	<p>成果(○)と課題(●)</p>
<p>地域を題材とした課題解決型の学習の推進により、地域への理解と郷土愛の育成、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち続けるための取組みを推進する</p>	<p>▶ 地域課題に目を向け、やまがた創生に貢献できる人材を育成するため、探究科・探究コースの設置を推進 ▶ 産業系の学科では、地域社会・産業界と連携し、地域をフィールドにした課題解決型の学習(課題研究)を実施</p>	<p>○教科の特質に応じた資質・能力の着実な育成を図るため、学校に対して適切な指導や支援を行った。 ○地域社会と連携した取組みが、学校の特色・魅力の一つとなっている。 ●探究科・普通科探究コースの取組みを中心に、探究型学習の指導計画や評価規準など蓄積した情報を収集・整理し、全県立高校への普及を図る必要がある。【再掲】</p>
<p>(2) グローカルな視点を持ち、地域産業の振興を担う人材の育成</p>		
<p>ねらい・方向性</p>	<p>主な取組み</p>	<p>成果(○)と課題(●)</p>
<p>地域や産業界など外部人材の活用により、地域産業や地域社会の一層の理解に努め、地域のニーズを踏まえた教育活動</p>	<p>▶ キャリア教育推進事業による、地域企業・関係行政機関との連携を強めたキャリア教育の展開と望ましい勤労観・職業観の育成 ・キャリア教育推進事業(インターンシップ推進事業)(分校及び定時制</p>	<p>○産業界等との連携・協力のもと、専門学習の深化を促し、地域産業の担い手育成に繋がっている。 ○各種講演会や各校の地域課題解決型の学習により、普通科生徒における地元大学や地元産業への理解促進が</p>

を展開する	を含む 35 校対象) ・産業担い手育成プロジェクト事業 (農工商 20 校対象) ・やまがた未来の産業人材キャリアサポート事業 (全工業科及び農業土木を学ぶ 2 学科対象) ・普通科高校におけるキャリア教育事業 (体験型インターンや探究学習等)	図られている。 ●地域によっては連携企業の確保が困難な場合があり、外部との連携協力方策を検討する必要がある。
SPH 事業等を通して、大学等の外部研究機関や地元産業界との連携を強化し、実践的な態度や創造的な能力を養成する	▶スーパープロフェッショナルハイスクール (SPH) 指定校における専門的職業教育の充実 (酒田光陵 H26～28、加茂水産 H27～29)	○高度な産業人材の育成に向け、大学や研究機関、産業界との連携強化が図られた。 ●新型コロナの影響で県外関係機関との交流が鈍化したため、事業成果を生かす機会を積極的に創出することが求められる。

4 幅広い選択肢の確保

(1) 望ましい学校規模と幅広い選択肢を確保した再編整備

ねらい・方向性	主な取組み	成果 (○) と課題 (●)
多くの選択科目を開設できる充実した教育課程を編成するため、望ましい学校規模を確保するとともに、地域社会の変化や地域産業の動向、学科の配置の地域間バランスに留意しながら、再編整備を進める	▶再編整備基本計画に基づく整備の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・8 地区への普通科及び普通系の専門学科、総合学科、全日制の普通科単位制高校の配置 ・職業に関する専門学科について、全ての学科の学習の場の確保 ・内陸、庄内それぞれに多様な生徒の多様な学び方のニーズに応えることのできる定時制や通信制の配置 	○各地区において、望ましい学校規模を備えた学校の設置、地区内の配置バランスや学科の構成に考慮した再編整備を推進した。 ●1 学級規模の学校が増加 (R5 現在 7 校) しており、教育の質の確保を図りつつ、在り方について検討していく必要がある。 ●卒業後の生徒の状況等を確認しながら、設置の効果について検証を行う必要がある。

(2) 小規模校での教育の質の確保とキャンパス制や地域と連携した教育活動の充実

ねらい・方向性	主な取組み	成果 (○) と課題 (●)
普通科の総合学科への学科改編や、連携型の中高一貫教育の導入の成果について検証しながら、多様な進路希望や学力差に対応できる教育課程を編成し、幅の広い学習ニーズに対応する	▶総合学科への学科改編の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・左沢 (H25 普通科→総合学科) ・遊佐 (H27 普通科→総合学科) ▶連携型中高一貫教育の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・金山中学校と新庄南金山校 学校設定科目：「金山タイム」、「最上学」、「卒業研究」 中高間連携：中高合同ボランティア、学校説明会 (中学生との懇談) ・小国、叶水 (小) 中学校と小国高校 継続学習：「国際理解・情報教育」「白い森学習 (地域学習)」 	○総合学科への改編により、特色ある科目を開設でき、生徒の進路に関する幅の広いニーズに対応している。 ●全日制総合学科の倍率が低下 (R5 入選最終倍率 0.65 倍) して小規模校化が進み、総合学科化のメリットが生かし切れていない。特色や強みを中学生に一層発信する必要がある。 ○中高連携のもと、地域に関する学習や交流が活発に行われている。 ●少子化に伴う生徒数の減少により連携型での志願者数も減少傾向にあり、取組みの持続性と効果を再検討する必要がある。(R5 年度連携型入選：金山校 5 名、小国 21 名)
キャンパス制や地域と連携した教育活動により、教育環境の改善に務め、小規模校の教育の質を確保する	▶キャンパス制の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・6 組 12 校 (R5 時点) で取組み H25～：寒河江・谷地、寒河江工業・左沢、長井工業・荒砥 H26～：新庄北・最上校、新庄南・金山校、鶴岡南・山添校 H27～：新庄神産・真室川校 ※鶴岡南・山添校は R3 末をもって終了 	○学校間連携のもとスケールメリットのある活動を展開し、専門的学習指導による学びの意欲の喚起、小規模校の教育環境の補強と活性化に繋がっている。 ○規模が大きい学校との交流により、小規模校の生徒の自信や達成感に繋がっている。

	<p>《主な事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導：出張授業、研究発表会、合同講演会、キャリア教育等 ・ 進路指導：資格取得等 ・ 学校行事：学校祭等 ・ 部活動：合同での練習、演奏会等 ・ 地域活動：イベント、ボランティア等への参加 ・ 職員研修：公開授業、研究授業等 <p>▶ 地域と連携したデュアル実践の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊佐（町や企業と連携した長期インターンシップの実施） <p>▶ 1 学年 1 学級の小規模校について、自治体と連携した地域連携協議会の設置と魅力化・活性化策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新庄北最上校、新庄南金山校、新庄神産真室川校、荒砥、小国、遊佐（以上 R2～）、左沢（R6～予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が地域に目を向け、地域貢献の意識が醸成されている。 ●連携・交流事業の内容にマンネリ化が見られる。 ●生徒数減少への対応、教員の負担軽減など、連携交流事業の継続に向けた配慮が必要である。 ●「将来の再編統合を見据えた連携交流」というキャンパス制のねらいと、再編統合が容易ではない現状とのギャップを踏まえ、キャンパス制の在り方の検討が必要である。 ○学校の魅力づくりに向け、地域一体での取組体制が構築されるとともに、地域自体の魅力化や活性化にも議論が拡大している。【再掲】 ○地域が主体となり、県外生の受入れ環境の整備が進展している。【再掲】 ●地域からの期待感が強まり、教員の負担感が増大している。【再掲】 ●R5 年度から魅力化事業が学校と自治体の自走となるため、円滑な実施に向けて支援する必要がある。【再掲】
--	---	--

5 キャリア教育の充実

(1) 体験的な活動を通じた望ましい勤労観・職業観の育成

ねらい・方向性	主な取組み	成果（○）と課題（●）
大学や地元企業への訪問、地域のボランティア活動への参加など、体験的な活動を多く採り入れ、生徒が他者と関わる中で自らの適性を知り、主体的に進路を選択できる力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 普通科高校におけるキャリア教育事業（体験型インターンや探究学習等）【再掲】 ▶ 山形県地域青少年ボランティア推進会議への参画 <ul style="list-style-type: none"> ・ YY ボランティアの推進 ・ 学校ごとの災害ボランティア研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種講演会や各校の地域課題解決型の学習により、普通科生徒における地元大学や地元産業への理解促進が図られている。【再掲】 ○関係課と連携し、高校生のボランティア活動を推進した。 ●部活動や学習活動等で多忙な生徒に配慮しつつ、ボランティア活動への参加者を拡大していく必要がある。
全ての学校においてインターンシップや職場見学等の体験的な学習や、「プロフェッショナルからのメッセージ」などの事業を通して、望ましい勤労観・職業観の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ▶ キャリア教育推進事業による、地域企業・関係行政機関との連携を強めたキャリア教育の展開と望ましい勤労観・職業観の育成【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山形のスペシャリストに聞くトップセミナー事業（全県立高 45 校対象） ・ キャリア教育推進事業（インターンシップ推進事業）（分校及び定時制を含む 35 校対象）【再掲】 ・ 普通科高校におけるキャリア教育事業（小学校教員体験セミナー） 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポートの導入やキャリア教育推進事業により、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成が図られている。 ○普通科生徒が学校現場で教員の体験をすることにより、教育に興味をもつきっかけとなっている。 ●キャリア教育の捉え方が教員により様々であり、職業指導や進路指導に終始しないよう、指導方法を改善する必要がある。 ●地域によっては連携企業の確保が困難な場合があり、外部との連携協力方を検討する必要がある。【再掲】

(2) 高校卒業者の県内定着や県外進学者のUターンを促す取組みの推進

ねらい・方向性	主な取組み	成果（○）と課題（●）
高校と県内の大学の連携を一層強化し、	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 県内大学促進事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山大医学部医学科への進学者数増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○各高校や教員及び義務教育課との共通理解のもと事業を推進している。

<p>高校卒業者の県内大学への入学者の増加を図る</p>	<p>に向けた「医進塾」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元大学の魅力発信と学力養成を図る「地元大学進学促進セミナー」の実施 ・山大工学部への進学者数増加に向けた「地元大学キャンパスツアー」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●各事業への参加生徒の増加に向けた周知活動が必要である。 ●各高校が多忙化しない形での事業推進の在り方検討が必要である。
<p>人口減少社会を踏まえた生き方在り方を考えさせるキャリア教育を推進し、高校生の段階から、大学生向けの就職ガイダンスや「山形県Uターン情報センター」について周知させる取組みなどを通して、新規学卒者のUターン回帰を促す</p>	<p>▶就職サポート登録の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者に対する県内企業の情報提供 	<p>○県外進学者あてに就職サポート登録を周知し、登録学生（家族）に対し、県内の雇用に関する情報を積極的に発信している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本県へのUターンを考える上での必要な要件（仕事、給与、福利厚生、まちの活気など）が不十分であり、情報発信に加えて、これらの環境整備が不可欠である。

6 多様な生徒の学びの場の確保

(1) 「学び直し」など多様な学習ニーズへの対応と夜間定時制の昼間定時制への移行

ねらい・方向性	主な取組み	成果（○）と課題（●）
<p>特別な支援を必要とする生徒について、ユニバーサルデザイン教育の視点を取り入れた授業づくりの取組みなど、生徒の個性に応じて一人一人の可能性を伸ばす教育を実践する</p> <p>スクールカウンセラーの派遣や特別支援教育支援員の配置により支援体制を充実させるとともに、併せて教育課程の弾力的な運用や教員研修の充実を図る</p>	<p>▶スクールカウンセラー（SC）の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心の悩み等に応えるため、配置基準に基づき、専門的知識に基づいたアドバイスを行う専門家を派遣（重点校 13 校/年間 23 回、重点校 12 校/年間 18 回、一般校 17 校/年間 12 回） <p>▶スクールソーシャルワーカー（SSW）の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の経済状況や家庭環境の問題が複雑化・深刻化する中、生徒が抱える問題の解決に向け、福祉の専門科を派遣 <p>▶特別支援教育支援員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員推進事業（H22～）に基づく支援員の配置と個別支援を実施 	<p>○生徒の心の悩みに応える機会の保障等生徒理解の充実、教職員との連携による教育相談体制の充実、不登校の解消や未然防止、特別な支援を必要とする生徒への支援体制の充実が図られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各校の希望に対する派遣回数・支援員の充実が必要である。 ●SSW 活用についての各校への周知と、効果的な活用方法の研究が必要である。 ●高校と特別支援学校や中学校、外部機関との連携、進学・就労支援の充実が求められる。
<p>自らの学習ペースに合わせて履修進度や学習時間帯を選択できる高校、より多くの選択授業や体験学習を取り入れることで自立に向けた支援ができる高校など、新しいタイプの学校を設置し、「学び直し」の場を確保する夜間定時制を昼間定時制に移行し、中途退学者等についても「学び直し」の場を確保するなど、高校</p>	<p>▶定時制・通信制のメリットを生かした多様な教育ニーズに応える高校を内陸、庄内地区に配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・霞城学園（H9 開校、定時制（昼間・夜間）、通信制を設置） ・庄内総合（R4 開校、鶴岡工定時制、鶴岡南通信制を移設し、全定通を併設） <p>▶「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」の実施（庄内総合）</p> <p>▶夜間定時制から昼間定時制への移行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒田西（H30～） ・庄内総合（R4～） ・米沢鶴城（R8～予定） ・新庄新（仮称）（R9～予定） 	<p>○庄内に新たに全定通の課程を備えた高校を整備し、多様な学び方のニーズに対応した。</p> <p>○全定通併修など三修制の導入により生徒の多様な学び方に応えられる学校が、内陸（霞城学園）と庄内（庄内総合）それぞれに設置され、生徒の興味・関心や将来の進路希望等に応じた多様な選択科目の履修が可能となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●卒業後の生徒の状況等を確認しながら、設置の効果について検証を行う必要がある。 <p>○酒田西定時制では昼間化により志願者が増加した（平均倍率 H27～H29:0.18 倍 → H30～R2:0.45 倍）</p>

卒業資格の取得に向け、再び学習に向かう環境を整備する		<p>○昼間化により、インターンシップ等の体験的な学習が取り入れやすくなるなど、様々な教育ニーズを満たすことができる。</p> <p>●多様な事情を抱えた生徒への理解と対応が求められる。</p> <p>●夜間定時制のニーズを満たすため、通信制教育の在り方の検討が必要である。</p>
(2) コミュニケーション能力の涵養と自立に向けた支援の充実		
ねらい・方向性	主な取組み	成果 (○) と課題 (●)
学校生活や学業に適應できない等により、高校入学後に進路変更を希望する場合、教育上支障がないことを条件としながら、転入学等の受け入れについて検討する	<p>▶ 生徒の事情を考慮した転編入の相談に関する柔軟な対応の実施</p>	<p>○生徒の事情を十分考慮し、弾力的に対応している。</p> <p>●教育課程が異なるため、必修科目における単位の読み替えを行う必要がある。また、補充指導等が必要な場合、教員及び生徒の負担に配慮のうえ実施することが求められる。</p>
企業見学やインターンシップなどの体験的な活動を充実させるとともに、ハローワークや地域若者サポートステーションなど外部関係機関と連携し、社会性や他者とのコミュニケーション能力を涵養しながら、自立に向けた取組みを推進する	<p>▶ 関係機関との連携を強化し、生徒の自立に向けた取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連絡協議会を開催し、地域との連携を見据えたキャリア教育の推進 ・インターンシップ推進事業によるインターンシップの推進【再掲】 ・山形県高等学校就職指導連絡会議の実施（高校生の就職に関わる関係者による情報交換） 	<p>○県内4地区ごとに地域連絡協議会を開催し、関係者と連携したインターンシップを推進している。</p> <p>○高等学校就職指導連絡会議を設置し、関係者（労働局、ハローワーク、県雇用・産業人材育成課、各総合支庁、若者就職支援センター、障害者職業センター、各高校）による情報交換を行い、高校生の雇用安定を図った。</p>

Ⅲ 県立高校再編整備の基本方針

1 中学校卒業生数に応じた入学定員の設定																						
方針の内容	主な取組み	成果 (○) と課題 (●)																				
入学者数の公私比率が概ね7：3となるよう、入学定員を設定する	<p>▶ H27年度からの10年間で、全県で公立高校の入学定員を35学級(1,400人)程度削減</p> <p>【公立高校募集学級数の見込み(H26当時)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H16</th> <th>H26</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学校卒業生数(人)</td> <td>13,996</td> <td>10,850 (-3,146)</td> <td>9,108 (-1,742)</td> </tr> <tr> <td>計算上の学級数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>173.5</td> </tr> <tr> <td>実際の学級数(収容率)</td> <td>248 (70.9%)</td> <td>203 (74.8%)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計画上の学級数(収容率)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>168 程度 (73.8%)</td> </tr> </tbody> </table>		H16	H26	R6	中学校卒業生数(人)	13,996	10,850 (-3,146)	9,108 (-1,742)	計算上の学級数	—	—	173.5	実際の学級数(収容率)	248 (70.9%)	203 (74.8%)	—	計画上の学級数(収容率)	—	—	168 程度 (73.8%)	<p>○H27年度からR6年度までの間に32学級を削減できる予定である。</p> <p>○R6年度中学校卒業生数(予測)8,918人に対し、公立高校は171学級(定員6,840人)となり、概ね7：3となる見込みである。</p> <p>●対象関係校、各市町、地域住民、私学等の意見を踏まえた円滑な再編整備の推進が求められている。</p> <p>●入学定員の公私比率を概ね7：3と設定してきたが、入学者の公私比率は61.9%：38.1%(学校基本調査R5速報値)と、私立への入学者が増加し、公立の充足率が低下しており、入学者の確保が急務である。</p>
	H16	H26	R6																			
中学校卒業生数(人)	13,996	10,850 (-3,146)	9,108 (-1,742)																			
計算上の学級数	—	—	173.5																			
実際の学級数(収容率)	248 (70.9%)	203 (74.8%)	—																			
計画上の学級数(収容率)	—	—	168 程度 (73.8%)																			
2 県立高校の再編整備に関する基本方針																						
方針の内容	主な取組み	成果 (○) と課題 (●)																				
再編整備による新しい学校づくりなどを	<p>▶ キャンパス制の実施【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6組12校(R5時点)で取組み 	<p>○学校間連携のもとスケールメリットのある活動を展開し、専門の学習指</p>																				

<p>通して、高校として望ましい学校規模（1学年当たり4～8学級）を確保し、教育の質的な向上と学校の活力の保持を図ることを基本とする。なお、1学年当たり4学級を下回る学校については、キャンパス制の導入や地域との連携等により、教育環境の改善に努める</p>	<p>H25～：寒河江・谷地、寒河江工業・左沢、長井工業・荒砥 H26～：新庄北・最上校、新庄南・金山校、鶴岡南・山添校 H27～：新庄神産・真室川校 ※鶴岡南・山添校はR3末をもって終了 《主な事業》 ・学習指導：出張授業、研究発表会、合同講演会、キャリア教育等 ・進路指導：資格取得等 ・学校行事：学校祭等 ・部活動：合同での練習、演奏会等 ・地域活動：イベント、ボランティア等への参加 ・職員研修：公開授業、研究授業等 ▶地域と連携したデュアル実践の推進【再掲】 ・遊佐（町や企業と連携した長期インターンシップの実施）</p>	<p>導による学びの意欲の喚起、小規模校の教育環境の補強と活性化に繋がっている。【再掲】 ○規模が大きい学校との交流により、小規模校の生徒の自信や達成感に繋がっている。【再掲】 ○生徒が地域に目を向け、地域貢献の意識が醸成されている。【再掲】 ●連携・交流事業の内容にマンネリ化が見られる。【再掲】 ●生徒数減少への対応、教員の負担軽減など、連携交流事業の継続に向けた配慮が必要である。【再掲】 ●「将来の再編統合を見据えた連携交流」というキャンパス制のねらいと、再編統合が容易ではない現状とのギャップを踏まえ、キャンパス制の在り方の検討が必要である。【再掲】</p>
<p>1学年当たり2学級の学校については、入学者数が2年連続して入学定員の3分の2に満たない場合は、その翌年度から入学定員を1学級分に減じ、更にその2年後に分校とする。ただし、この基準の適用に当たっては、学科等の特殊性や交通事情等の地域の実情に十分に配慮する</p>	<p>▶再編整備に関する基本方針の運用 ・分校化 真室川→新庄神産真室川校（H27～） ・学級減 左沢（R2、R6）、荒砥（R2） ▶基本方針の一部改定（R2.2） 分校化に関する記述を削除 《見直し後》 1学年当たり2学級の学校については、入学者数が2年連続して入学定員の3分の2に満たない場合は、その翌年度から入学定員を1学級分に減じる。ただし、この基準の適用に当たっては、学科等の特殊性や交通事情等の地域の実情に十分に配慮する。</p>	<p>○1学年当たり2学級の学校において、方針に基づいて学級減及び分校化を実施した。 ○地域が学校に求める役割の変化や学校存続への強い意向等を踏まえ、R元年度末に基本方針を一部改定し、分校化を行わないこととした。 ●学科等の特殊性や交通事情等の地域の実情に十分配慮するための基本方針づくりが必要である。</p>
<p>1学年当たり1学級の学校については、入学者数が2年連続して入学定員の2分の1に満たない場合は、交通事情等の地域の実情に配慮しながら、原則としてその2年後に募集停止とする</p>	<p>▶再編整備に関する基本方針の運用 ・募集停止 鶴岡南山添校（R2） ▶基本方針の一部改定（R2.2） 募集停止のルールを削除 《見直し後》 1学年当たり1学級の学校については、魅力化に係る地域連携協議会等のもと、魅力化・活性化策を3年間を目標として実施する。実施後においても入学者数に増加が見られない場合は、設置主体を含めた学校の在り方について、地元市町と改めて協議する。</p>	<p>○1学年当たり1学級の学校において、方針に基づいて募集停止を実施した。 ○地域が学校に求める役割の変化や学校存続への強い意向等を踏まえ、R元年度末に基本方針を一部改定し、募集停止を行わないこととした。 ●少人数学級による丁寧な指導など、募集停止となった学校の役割の移行が必要である。 ●1学級規模の学校が増加（R5 現在7校）しており、教育の質の確保を図りつつ、在り方について検討していく必要がある。【再掲】</p>

3 各学科の配置

(1) 普通科及び普通系の専門学科（理数、体育、音楽）

方針の内容	主な取組み	成果（○）と課題（●）
<p>8地区ごとに、大学等への進学を希望する生徒への指導体制を整えるために望ましい規模の学校を少なくとも1校配置する</p>	<p>▶8地区ごとに大学進学に対応した高校の設置</p>	<p>○8地区全てに大学進学に対応した普通科高校を設置し、適正規模を維持している。【再掲】 ●大学進学のための学習が中心になっている傾向に大きな変化はなく、学習指導要領の趣旨を踏まえながら、学力向上を目指す授業改善が必要である。</p>

		●生徒数の減少により充足率が下がっている普通科高校があり、入学者の確保が急務である。
必要に応じて、普通科高校（普通系の専門学科との併設校を含む）の再編や「探究科」など新たな学科の設置を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 普通科高校の再編 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鶴岡南と鶴岡北の統合による併設型中高一貫教育校の設置 ▶ 普通科系の専門学科の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理数科：山形南、鶴岡南（普通科併設） ・ 体育科：山形中央 ・ 音楽科：山形北 ▶ 探究科の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山形東、米沢興譲館、酒田東 ▶ 普通科探究コースの設置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 寒河江、新庄北、長井 	○普通科系専門学科については、各科で実践的な学習を通じ、先進的な人材育成に当たっている。 ○探究科の設置により、探究活動の充実が図られている。 ●併設型中高一貫教育校や探究科・探究コースについては、進路希望の達成状況等を確認しながら、設置の効果検証を行う必要がある。

(2) 職業に関する専門学科（農業、工業、商業、水産、家庭（含福祉）、看護、情報）

方針の内容	主な取組み	成果（○）と課題（●）
地域産業や社会の情勢を踏まえ、生徒数の減少に伴う一律的な削減は行わず、全ての学科の学習の場を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 全ての学科の学習の場の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業科設置数：5校 10 学級 ・ 工業科：8校 28 学級 ・ 商業科：5校 7 学級 ・ 水産科：1校 1 学級 ・ 家庭科：1校 2 学科 2 学級 ・ 看護科：1校 1 学級 ・ 情報科：1校 1 学級 ・ 福祉科（家庭に関する学科として設置）：1校 1 学級 	○県内産業発展の基盤となる人材育成に欠かせない学習の場として維持されている。 ○各教科・教育の役割を活かした取組みが特色ある学校づくりに繋がっている。 ○各教科で学んだ専門性を活かした進路意識や資格取得が定着している。 ●AI、IoT、ICT 等の技術革新に対応した教員の指導力向上が必要である。
1 学年当たり 4 学級以上の単独校については、原則として単独校として維持し、4 学級を下回る単独校については、当面は単独校として維持しながらも、更に小規模化が想定される場合には、他学科との再編を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 他学科との統廃合による産業高校の学校規模の維持 <ul style="list-style-type: none"> ・ 村山産業（H26～農工商） ・ 新庄神産（農工、R6～農工商） ・ 酒田光陵（H24～普工商情） ・ 米沢鶴城（R7～工商） 	○他学科との再編により、学校規模を保ちながら、学科横断型の学習により人材育成に繋がっている。 ●産業系学科の学級減は専門分野の取捨選択を行うことになる。水産科の学級減（1 学級化）を踏まえ、水産学習をどう担保していくか検討が必要である。 ●産業系学科の学級数に伴う教職員の減少等で施設の維持管理が困難化しており、対応が必要である。

(3) 総合学科

方針の内容	主な取組み	成果（○）と課題（●）
8 地区ごとに、少なくとも 1 校配置できるよう検討する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 総合学科の設置（9 校） <ul style="list-style-type: none"> ・ 天童、左沢、北村山、高畠、米沢工業（定 R5～）、荒砥、鶴岡中央、庄内総合（全定）、遊佐 	○生活・福祉、情報ビジネス、生活総合、果樹園芸など、多様な学習ニーズへの対応や進路希望に沿った学習に繋がっている。 ●深刻な定員割れが続く学校があり（R5 入選最終倍率：0.68）、総合学科の仕組みや特徴を中学生に浸透させる必要がある。

4 特色ある学校の配置

(1) 総合選択制

方針の内容	主な取組み	成果（○）と課題（●）
学校や地域の実情に配慮し、高校教育の	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 総合選択制の導入（3 校） <ul style="list-style-type: none"> ・ 村山産業（農工商）、新庄神産（農 	○所属する学科の学習を重点的に行いながら、一部の科目について学科の

質の確保・向上と学校活力の保持の観点から、小規模化する専門高校等を再編し、学科の枠を越えた学習ができる総合選択制高校の設置を検討する	工)、酒田光陵 (普工商情)	枠を超えて選択することができ、6次産業化の取組み等、地域産業を担う人材の育成に繋がっている。 ● 少子化の影響により、地域によって充足率が低下しており、入学者の確保が急務である。
(2) 中高一貫教育		
方針の内容	主な取組み	成果 (○) と課題 (●)
内陸地区のモデル校として、東根市に併設型の東桜学館中学校・東桜学館高等学校(仮称)を設置する。庄内地区については、同校の開校に向けた取組みや、全国の併設型中高一貫教育校の成果を踏まえ、地域の意見を聞きながら設置を検討する	▶ 併設型中高一貫教育校の設置 (2校) ・ 東桜学館中・高 (H28.4)、致道館中・高 (R6.4 予定)	○ 東桜学館では、中高一貫教育の特色を生かした教育が実践され、生徒の主体性や社会性の育成、学習意欲の向上などの面で成果が出ている。 ・ SSH指定 ・ユネスコスクール加盟 ・ 優良PTA 文部科学大臣表彰 ○ 中高合同の行事等、異年齢集団による多様な体験活動により、社会性や豊かな人間性の育成が図られている。 ○ 内進生と外進生が交わることで、新たな学習意欲に繋がっている。 ● 6年一貫教育の特色の創出に向けた定期的な検証が必要である。
(3) 普通科単位制 (全日制)		
方針の内容	主な取組み	成果 (○) と課題 (●)
学校独自の科目を含む充実した教育課程を編成し、生徒の多様な進路希望や学習要求にきめ細かく対応する全日制的普通科単位制高校を、8地区ごとに、少なくとも1校配置できるよう、東南村山地区への導入を検討する	▶ 普通科単位制の導入 (全日制 13校) ・ 山形東 (H30~)、山形西 (H29~)、寒河江、東桜学館、新庄北、新庄南金山校、米沢興譲館、米沢東、長井、鶴岡南、鶴岡北、酒田東、酒田西	○ 生徒の進路希望に合わせた多様な選択科目を少人数クラス編成で提供するなど、メリットを活かした教育課程が編成されている。 ● 大学進学のための学習を強化するための科目設定が目立つ、新学習指導要領の改訂もあり理系と文系の選択に大きな差が生じる等への対応が求められる。 ● 単位制でない普通科との違いを生かした魅力化を推進する必要がある。
(4) 定時制・通信制		
方針の内容	主な取組み	成果 (○) と課題 (●)
夜間定時制については、状況が整った地区から昼間定時制への移行を検討する	▶ 夜間定時制から昼間定時制への移行【再掲】 ・ 酒田西 (H30~) ・ 庄内総合 (R4~) ・ 米沢鶴城 (R8~予定) ・ 新庄新(仮称) (R9~予定)	○ 酒田西定時制では昼間化により志願者が増加した (平均倍率 H27~H29:0.18倍 → H30~R2:0.45倍)。 【再掲】 ○ 昼間化により、インターンシップ等の体験的な学習が取り入れやすくなるなど、様々な教育ニーズを満たすことができる。【再掲】 ● 多様な事情を抱えた生徒への理解と対応が求められる。【再掲】 ● 夜間定時制のニーズを満たすため、通信制教育の在り方の検討が必要である。【再掲】
多様な生徒が、それぞれの実情に応じて学習の時間帯や形態	▶ 定時制・通信制のメリットを生かした多様な教育ニーズに応える高校を内陸、庄内地区に配置【再掲】	○ 庄内地区に全定通の課程を備えた高校を整備し、多様な学び方のニーズに対応した。【再掲】

<p>を選択することができ新しいタイプの高校を、庄内地区に設置することについて検討する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 霞城学園（H9 開校、定時制（昼間・夜間）、通信制を設置） 庄内総合（R4 開校、鶴岡工定時制、鶴岡南通信制を移設し、全定通を併設） 	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業後の生徒の状況等を確認しながら、設置の効果について検証を行う必要がある。【再掲】
---	---	---

<p>5 小規模校の特色づくり</p>		
<p>(1) キャンパス制</p>		
<p>方針の内容</p>	<p>主な取組み</p>	<p>成果（○）と課題（●）</p>
<p>制度自体の理解や導入のメリットについて、地域や保護者に十分周知を図るとともに、実施による教職員の負担増にも配慮しながら継続する</p>	<p>▶ キャンパス制の実施【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6組12校（R5 時点）で取組み H25～：寒河江・谷地、寒河江工業・左沢、長井工業・荒砥 H26～：新庄北・最上校、新庄南・金山校、鶴岡南・山添校 H27～：新庄神産・真室川校 ※鶴岡南・山添校はR3 末をもって終了《主な事業》 ・学習指導：出張授業、研究発表会、合同講演会、キャリア教育等 ・進路指導：資格取得等 ・学校行事：学校祭等 ・部活動：合同での練習、演奏会等 ・地域活動：イベント、ボランティア等への参加 ・職員研修：公開授業、研究授業等 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校間連携のもとスケールメリットのある活動を展開し、専門の学習指導による学びの意欲の喚起、小規模校の教育環境の補強と活性化に繋がっている。【再掲】 ○規模が大きい学校との交流により、小規模校の生徒の自信や達成感に繋がっている。【再掲】 ○生徒が地域に目を向け、地域貢献の意識が醸成されている。【再掲】 ●連携・交流事業の内容にマンネリ化が見られる。【再掲】 ●生徒数減少への対応、教員の負担軽減など、連携交流事業の継続に向けた配慮が必要である。【再掲】 ●「将来の再編統合を見据えた連携交流」というキャンパス制のねらいと、再編統合が容易ではない現状とのギャップを踏まえ、キャンパス制の在り方の検討が必要である。【再掲】
<p>(2) 地域との連携</p>		
<p>方針の内容</p>	<p>主な取組み</p>	<p>成果（○）と課題（●）</p>
<p>小規模校においては、地元自治体の支援を得ながら、地域と連携した特色ある教育活動が行われており、高校の存在が地域の活力の維持につながっている側面があることから、地域と連携した取組を推進する</p>	<p>▶ 1 学年 1 学級の小規模校について、自治体と連携した地域連携協議会の設置と魅力化・活性化策の実施【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新庄北最上校、新庄南金山校、新庄神産真室川校、荒砥、小国、遊佐（以上 R2～）、左沢（R6～予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の魅力づくりに向け、地域一体での取組体制が構築されるとともに、地域自体の魅力化や活性化にも議論が拡大している。【再掲】 ○地域が主体となり、県外生の受入れ環境の整備が進展している。【再掲】 ●地域からの期待感が強まり、教員の負担感が増大している。【再掲】 ●R5 年度から魅力化事業が学校と自治体の自走となるため、円滑な実施に向けて支援する必要がある。【再掲】

6 各学区の高校再編整備の進捗状況 (◎:1学級増 ○:1学級減 ☆:学科改編等 ☒:募集停止 ■:統合 ◆:分校化) 人数は中学校卒業業者数及び今後の見込数、○内の数は学級数

学区	平成 26 年度 学級数	27 年度 (2015)	28 年度 (2016)	29 年度 (2017)	30 年度 (2018)	31 年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	3 年度 (2021)	4 年度 (2022)	5 年度 (2023)	6 年度 (2024)	令和 6 年度 学級数
	中学校卒業業者数	27 年 3 月卒	28 年 3 月卒	29 年 3 月卒	30 年 3 月卒	31 年 3 月卒	2 年 3 月卒	3 年 3 月卒	4 年 3 月卒	5 年 3 月卒	6 年 3 月卒	
東	75 学級 ・ 東南村山 61 ・ 西村山 14	キャンパス制 寒河江+谷地 寒工+左沢	○山形中央(普)	○山形西(普)	☆山形東 (探②・普④) ☆寒河江 (探①・一般④)	○山形南(普) ○上山明新館 (普) ○谷地(普)	○左沢(総)		○山形工業(工)	○天童(総)	○左沢(総)	66 学級 ・ 東南村山 55 ・ 西村山 11
	4,369 人	4,309 人	4,184 人	4,219 人	4,239 人	3,910 人	3,891 人	3,783 人	3,836 人	3,785 人	3,725 人	▲644 人
北	31 学級 ・ 北村山 14 ・ 最上 17	◆新庄神室産業 真室川校 キャンパス制 新北+最上 新南+金山 神室+真室川	楯岡(普) 東桜学館 中・高	○新庄南(普)	○北村山(総) ☆新庄北 (探①・一般④)		学校魅力化地域連携協議会 (最上校、金山校、真室川校)	計画案の 周知・検討	最上地区の再編整備 ・ R6 神室産業(商)新設 ・ R8 新庄新開校(新北と新南普統合)、R9 定時制昼間移行		○新庄北(全普) ◎新庄神室産(商) ☒新庄南(商)	28 学級 ・ 北村山 13 ・ 最上 15
	1,624 人	1,705 人	1,674 人	1,714 人	1,618 人	1,612 人	1,616 人	1,447 人	1,519 人	1,493 人	1,345 人	▲279 人
南	42 学級 ・ 東南置賜 30 ・ 西置賜 12	キャンパス制 長工+荒砥	○米沢工業(工)		○南陽(普) ☆米沢興譲館 (探②・普③) ☆長井 (探①・一般④)	○小国(普)	○荒砥(総)		○米沢商業(商)	○高阜(総) ☆米沢工業(定) (工→総)	○置賜農業(農)	35 学級 ・ 東南置賜 25 ・ 西置賜 10
	2,073 人	2,046 人	2,140 人	2,042 人	1,918 人	1,871 人	1,832 人	1,693 人	1,732 人	1,709 人	1,717 人	▲356 人
西	55 学級 ・ 田川 32 ・ 飽海 23	○鶴岡工業(工) ○酒田光陵(商) ☆遊佐(普→総) キャンパス制 鶴南+山添	○酒田光陵(普)	○庄内農業(農)	○鶴岡北(普) ○酒田西(全普) ☆酒田東 (探②・普③) ☆酒西(定) →昼間定	○鶴岡中央(総) ○酒田光陵(工)	☒鶴岡南山添校 (普)		☒鶴岡工業(定) ■鶴岡南(通) ○庄内総合(総) 全日、昼間定、 通信制併設校	○加茂水産(水)	■鶴南■鶴北 致道館 中・高 ○致道館 中・高(普) ○酒田西(全普)	42 学級 ・ 田川 24 ・ 飽海 18
	2,784 人	2,624 人	2,618 人	2,635 人	2,494 人	2,415 人	2,291 人	2,193 人	2,240 人	2,172 人	2,131 人	▲653 人
計	203 学級	2学級減	3学級減	3学級減	4学級減	6学級減	3学級減	なし	3学級減	3学級減	5学級減	171 学級
	10,850 人	10,684 人	10,616 人	10,610 人	10,269 人	9,808 人	9,630 人	9,116 人	9,327 人	9,159 人	8,918 人	▲1,932 人